

# 2次避難へ動き本格化

## きょう発生2週間

# 葛島、ドローンで熱源調査

大分市佐賀関の大規模火災は2日で発生から2週間となった。住宅地などがあ  
る半島部分は鎮火したものの、飛び火した葛島は「経過観察が必要」で  
鎮火宣言は見送られている。発生直後から避難所となっている佐賀関市民センタ  
ーには55世帯81人(1日午前7時現在)が身を寄せており、2次避難に向けた動  
きも本格化している。

## 佐賀関 大火

島では小型無人機ドロー  
ンを使った熱源の確認が続  
いている。1日も県や市の  
要請を受けた県ドローン協  
議会防災・減災分科会と大  
分大減災・復興デザイン教  
育研究センターのメンバ  
ーらが調査に入った。



飛び火した葛島に残っている熱源をドローンで調査＝1  
日午前6時45分ごろ、大分市佐賀関、撮影・田尻雅彦

感知の精度を上げるた  
め、日の出前の午前6時半  
からドローンを飛ばし、熱  
源の有無や温度を調べた。  
センター長の鶴成悦久教授  
は「できる限り見落としの  
ないよう細かく調べてい  
るが、島の状況は落ち着い  
てきている」と話した。  
市災対本部によると、こ  
こ2日間、島で熱源は確認  
されていない。3日以降に  
県防災ヘリコプターやド  
ローンを使って調査を実施  
し、鎮火したかどうかを判  
断する。

案内する準備も整った。  
市が先月22、24日に避難  
住民を対象に実施したアン  
ケートでは、回答した70世  
帯の半数ほどが、通院や通  
勤、通学のため佐賀関地区  
での仮住まいを望んだ。  
自宅が全焼し、両親と共  
に避難している岩川浩一さ  
ん(46)は「段ボールベッド  
での生活はきつい。佐賀関  
での2次避難が難ければ

坂ノ市辺りまで考えたい。  
テレビや冷蔵庫、洗濯機な  
どの家電がそろっていると  
助かる」と語った。  
市は「近所の人と相談し  
て同じ移転先を希望する人  
もいるだろう。できるだけ  
希望に添うようにしたい」  
としており、2日の住民説  
明会で詳細を示す。  
火災は11月18日に発生。  
住宅など約180棟を焼  
き、1人が死亡、約130  
世帯が被災した。  
(渡辺美加、牧里保子、  
田尻雅彦)